

投票年齢 18 歳以上を前にして

開倫塾

塾長 林明夫

来年夏の参議院議員選挙から、国会や地方議会の議員、県知事や市町長の選挙の投票年齢が 18 歳以上になります。また、最高裁判所の裁判官や一部の地方公共団体だけに適用される特別法、憲法改正の国民投票の年齢も 18 歳以上となります。

国や自治体の将来を決める大切な選挙や国民投票ですので、投票に臨む心構えをご一緒に考えてみませんか。

一番大切なのは、棄権をしないことです。当日、時間がとれなければ不在者投票をいたしましょう。

これから臨むのはどのような選挙や国民投票であるかをよく理解することも大切です。参議院はどのような役割を果たすところなのか。どのようなことが議論されているのか。それに対して候補者や候補者が所属する政党はどのような政策をもって選挙に臨んでいるのか。

新聞を毎日よく読む。TV やラジオの関連ある番組を視聴する。インターネットで調べる。選挙公報をよく読み、立ち会い演説会に出掛けて候補者から直接話を聞くのもお勧めです。

来年夏の参議院議員選挙をきっかけにして、選挙や国民投票が行われるごとに、日本や世界、地域の現状や課題、将来のあるべき姿を自分の力で考えた上で、様々なテーマごとに開かれる会合で率直に意見交換をし、少しずつ自分の考えをまとめ、主権者としての自覚を深めることをお勧めします。日本と自治体の最大の課題は、1000 兆円を超えた国と地方の借金と、超少子高齢化、グローバル化とデフレの中で国民の生活の維持・向上をどう図るかです。

日本史や世界史、現代社会や倫理、政治経済などの高校の授業科目は、主権者として投票をするときに役立ちます。真剣に学んでください。

政治についての興味・関心が深まり、自分が国民の代表者として活躍したいという高い志をもつ人は、是非、選挙に立候補してください。

私は、投票年齢 18 歳以上に合わせ、参議院議員と知事を含めすべての選挙の被選挙権も 18 歳以上とすべきと考えます。

同時に、企業や職場は、退職しなくても立候補できるように、また、議員等の任期満了後に復職できるようにして、政治家を目指す志の高い人々を支援すべきと考えます。

以上